

前橋市 0149 遺跡

(都) 中央大橋線街路事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県前橋土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市 0149 遺跡

(都) 中央大橋線街路事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県前橋土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



前橋市0149遺跡遠景(西より 写真中央の高い建物は群馬県庁)

序

本書は、群馬県前橋市問屋町に所在し、中央大橋線街路事業に伴い発掘調査が行われた前橋市0149遺跡の調査報告書です。本遺跡の調査は、群馬県前橋土木事務所の委託を受け、平成30年12月に実施いたしました。

前橋市0149遺跡のある総社地区は、総社古墳群をはじめ多くの古墳が築造されていることで知られています。飛鳥から奈良・平安時代には、山王廃寺、上野国分寺、上野国府などが造られ、上野国の中心として栄えました。

今回の調査では、古墳時代から中・近世の畠や土坑が調査されました。このうち土坑1基からは、須恵器や土師器の杯や椀がまとまって出土し、この地にも先人たちの生活が開いていたことがわかりました。

これらの調査成果は、古代の上野国を様子を知るうえで貴重な成果の一つになると考えております。そして、この報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の資料として学校教育、郷土学習にも役立てていただけるものと確信いたしております。

最後になりましたが発掘調査から報告書作成にいたるまで、群馬県地域創生部文化財保護課、前橋市教育委員会および地元関係者の皆様には、多大なるご協力とご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、関係者の皆様に心より感謝の意を表し、序といたします。

令和3年1月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 向田忠正

例 言

- 1 本書は、令和2年度(都)中央大橋線街路事業に伴う埋蔵文化財に伴う前橋市0149遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 所在地 群馬県前橋市間屋町 2011-2、2012-2、2013-3、2014-3、2015-3、2016-2
- 3 事業主体 群馬県前橋土木事務所
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査期間および体制は以下の通りである。
履行期間 平成30年12月1日～平成31年3月31日
調査期間 平成30年12月1日～平成30年12月31日
調査担当 武井 学(調査研究員)
調査面積 409.0㎡
遺跡掘削請負工事 有限会社高澤考古学研究所
遺構地上測量 技研コンサル株式会社
空中写真撮影 技研コンサル株式会社
- 6 整理事業期間および体制は以下の通りである。
履行期間 令和2年9月1日～令和3年1月31日
整理期間 令和2年9月1日～令和2年11月30日
遺物実測・観察表・写真撮影 神谷佳明(専門調査役)
デジタル編集・本文執筆 齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)
- 7 発掘調査諸資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 8 発掘調査および整理事業・本報告書の作成には下記の機関よりご指導・ご教示を頂いた。
群馬県地域創生部文化財保護課、前橋市教育委員会

凡 例

- 1 報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標第Ⅸ系(世界測地系)を使用した。北方位はすべて座標北で、真北方向角は $X=43,930$ 、 $Y=-70,900$ で東偏 $0^{\circ} 28' 08''$ である。
- 2 遺構・遺物の縮尺は、原則として以下の通りとし、それぞれスケールを明示した。
遺構 1:40または1:80 遺物 1:3
- 3 遺構の主軸方向・走向を示すため、座標北を基準として東に傾いた場合は $N-\bigcirc^{\circ}-E$ 、西に傾いた場合は $N-\bigcirc^{\circ}-W$ というように表記した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し()で表した。
- 4 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版とも一致する。
- 5 本書で使用したテフラの呼称は以下の通りである。
浅間C軽石 As-C(4世紀初頭)
浅間B軽石 As-B(天仁元年 1108年)
榛名二ツ岳渋川テフラ Hr-FA(6世紀初頭)
- 6 土層や土器の色調観察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 7 本書で使用した地図は以下の通りである。
国土地理院発行 20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」平成10年発行
2万5千分の1電子地形図「前橋」平成30年発行

目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真目次

第1章 調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯…………… 1

第2節 発掘調査の方法…………… 2

第3節 発掘調査の経過…………… 4

第4節 整理作業の経過…………… 4

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の地形と立地…………… 5

第2節 周辺遺跡の分布…………… 6

第3章 調査された遺構と遺物

第1節 調査の概要…………… 8

第2節 遺構と遺物…………… 8

(1)土坑…………… 8

(2)ピット…………… 14

(3)畠…………… 15

(4)溝…………… 17

(5)遺構外出土遺物…………… 18

第3節 調査のまとめ…………… 18

挿図目次

第1図	前橋市0149遺跡と群馬県的地勢	1	第9図	6・7号土坑と出土遺物	11
第2図	前橋市0149遺跡の位置	2	第10図	8～12号土坑と出土遺物	13
第3図	調査区とグリッドの設定図・基本土層	3	第11図	1～10号ピット	14
第4図	遺跡周辺の地形	5	第12図	1号畠	15
第5図	周辺の遺跡	6	第13図	2号畠	16
第6図	前橋市0149遺跡第1面全体図	8	第14図	1～3号溝	17
第7図	第2面全体図、1・2号土坑と出土遺物	9	第15図	遺構外出土遺物	20
第8図	3・4・5号土坑と出土遺物	10			

表目次

第1表	前橋市0149遺跡の周辺遺跡	7	第3表	出土遺物観察表	20
第2表	ピット計測表	18			

写真目次

P.L. 1	1	前橋市0149遺跡遠景(西から)	P.L. 5	1	4号ピット全景(南から)
	2	遺跡周辺空中写真(国土地理院の空中写真1961年撮影)		2	5号ピット全景(南西から)
P.L. 2	1	1号土坑セクション(南から)		3	6号ピットセクション(西から)
	2	1号土坑全景(南から)		4	6号ピット全景(西から)
	3	2号土坑セクション(南から)		5	7号ピットセクション(西から)
	4	2号土坑全景(南から)		6	7号ピット全景(西から)
	5	3号土坑セクション(東から)		7	8号ピットセクション(西から)
	6	3号土坑全景(東から)		8	8号ピット全景(西から)
	7	4号土坑セクション(南から)	P.L. 6	1	9号ピットセクション(南から)
	8	4号土坑全景(南から)		2	10号ピット全景(北から)
P.L. 3	1	5号土坑全景(南西から)		3	1号畠全景(南西から)
	2	6号土坑セクション(北から)		4	1号畠耕作痕(西から)
	3	7号土坑セクション(南から)		5	2号畠全景(東から)
	4	7号土坑全景(南から)	P.L. 7	1	2号畠全景(南東から)
	5	8号土坑遺物出土状況(北から)		2	1号溝全景(南東から)
	6	8号土坑全景(北から)		3	1号溝セクション(南東から)
	7	9・10号土坑全景(南東から)		4	2号溝セクション(北東から)
	8	11号土坑全景	P.L. 8	1	2号溝セクション(南から)
P.L. 4	1	12号土坑セクション(南から)		2	3号溝セクション(北から)
	2	土坑群全景(西から)		3	4号トレンチセクション(南から)
	3	1号ピットセクション(北から)		4	5号トレンチセクション(南から)
	4	1号ピット全景(北から)		5	1号トレンチセクション(東から)
	5	2号ピット全景(北から)		6	2号トレンチセクション(南から)
	6	3号ピットセクション(北から)	P.L. 9	1	3号トレンチセクション(南から)
	7	3号ピット全景(北から)		2	6号トレンチセクション(北から)
	8	4号ピットセクション(南から)			前橋市0149遺跡出土遺物

第1章 調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

前橋市0149遺跡は、群馬県の中央部、前橋市問屋町内に所在する。遺跡の北方約1.5kmには総社古墳群、北西約1.4kmには史跡山王廃寺跡、西方約2kmには史跡上野国分寺跡などがあり、古墳時代から群馬県の中心として栄えてきた地域である。

中央大橋線は、前橋市千代田町内の国道17号を起点とし高崎市塚田町とをつなぐ全長4.2m・幅20mの幹線道路である。県が定めている7つの交通軸構想の1つである「西毛広域幹線道路」に位置付けられ、群馬県の中央部と西部を結ぶ重要な幹線道路として早期開通が求められている。

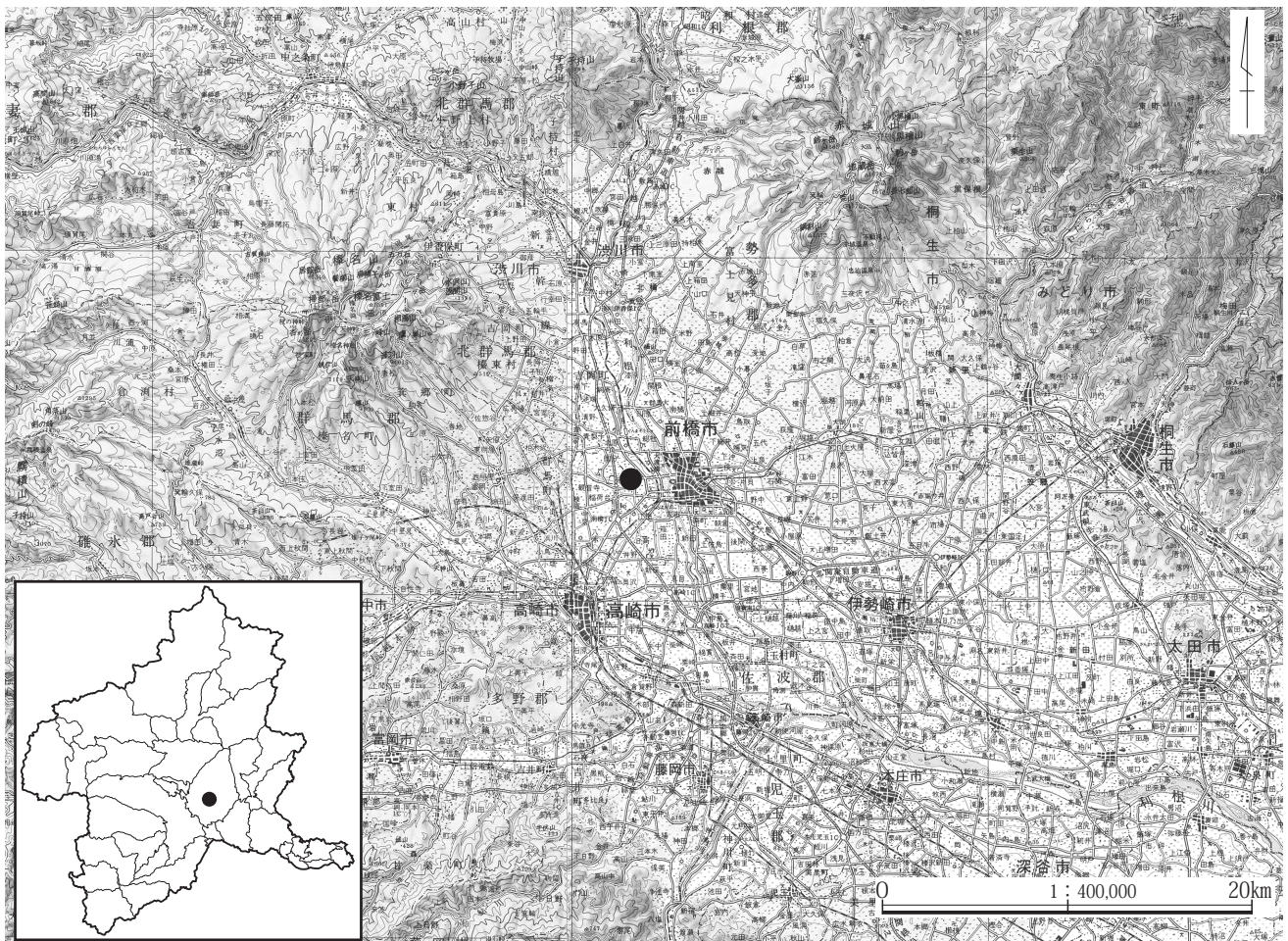
計画は、前橋市問屋町内の主要地方道安中富岡線からコンビニエンスストア東までの693mの区間を片側1車

線から2車線に拡幅するものである。

群馬県教育委員会文化財保護課(現地域創生部文化財保護課、以下文化財保護課と略す)は、群馬県前橋土木事務所の照会を受け、平成29年10月に重機を用いた試掘調査を実施した。その結果、古代の生産址等が確認されたため、前橋市0149遺跡として発掘調査の対象となった。

平成30年11月1日、文化財保護課の調整を受け群馬県前橋土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査委託契約が締結され、平成30年12月1日より12月31日までの期間で発掘調査が実施されることとなった。

なお、遺跡名称については、前橋市との協議の結果、前橋市0149遺跡と称することが決定された。



第1図 前橋市0149遺跡と群馬県の地勢(20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」図幅を加工)

第2節 発掘調査の方法

1 調査区とグリッドの設定

調査区の名称は調査工程管理のために西からA・B・C・Dを設定したが、遺構番号は通し番号とした。本報告では、調査範囲が狭く遺構数も少ないため、A～Dの調査区の名称を用いることなく、遺構番号のみの記載としている。

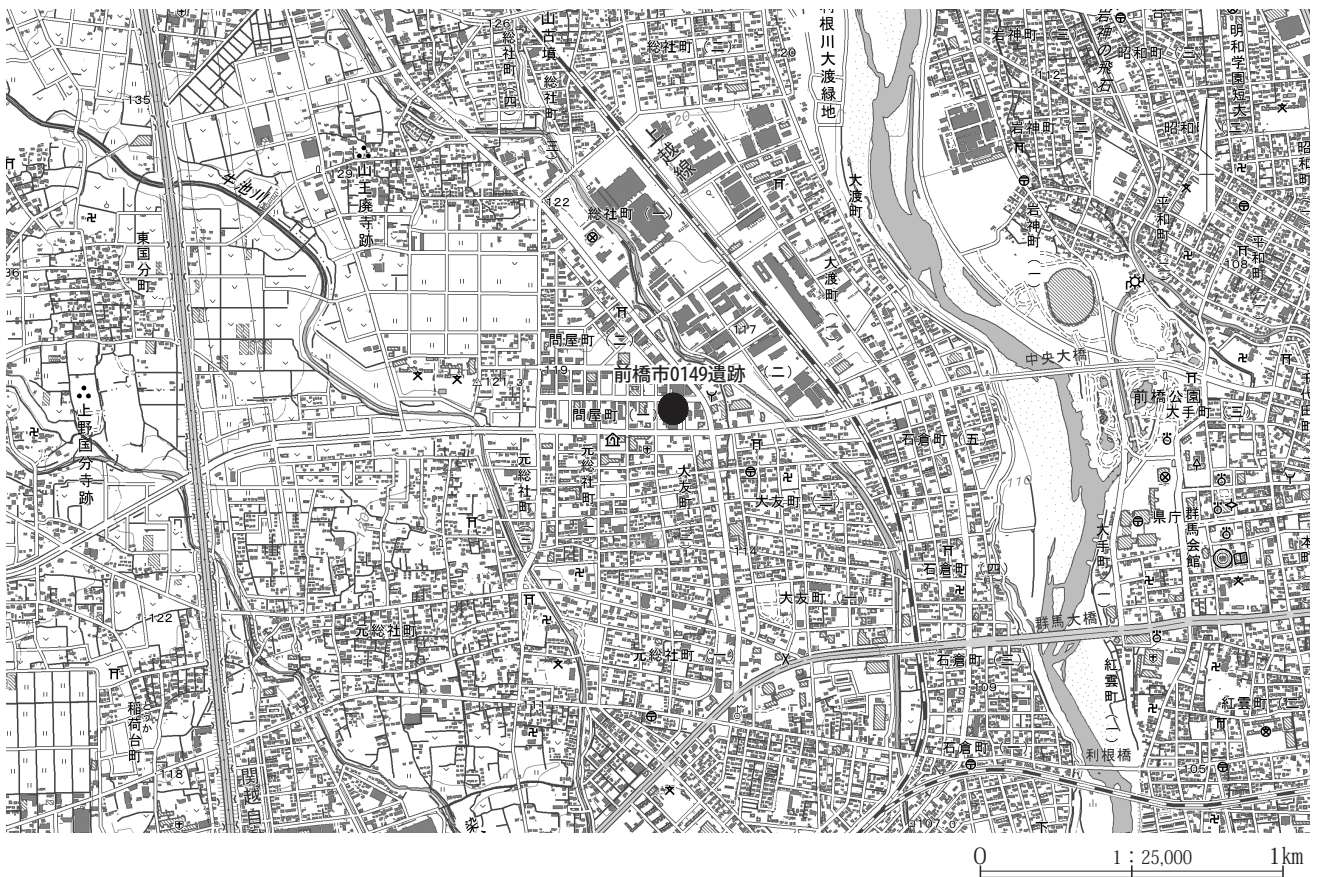
平面図を記録する測量用のグリッドは、平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第九号)IX系を使用し、座標値の下3桁で呼称した。例えば、X軸=43930とY軸=-70900の交点をそれぞれ930、-900と略し、この地点を南東隅とする5m四方の範囲を930-900グリッドと呼ぶ。

2 基本土層

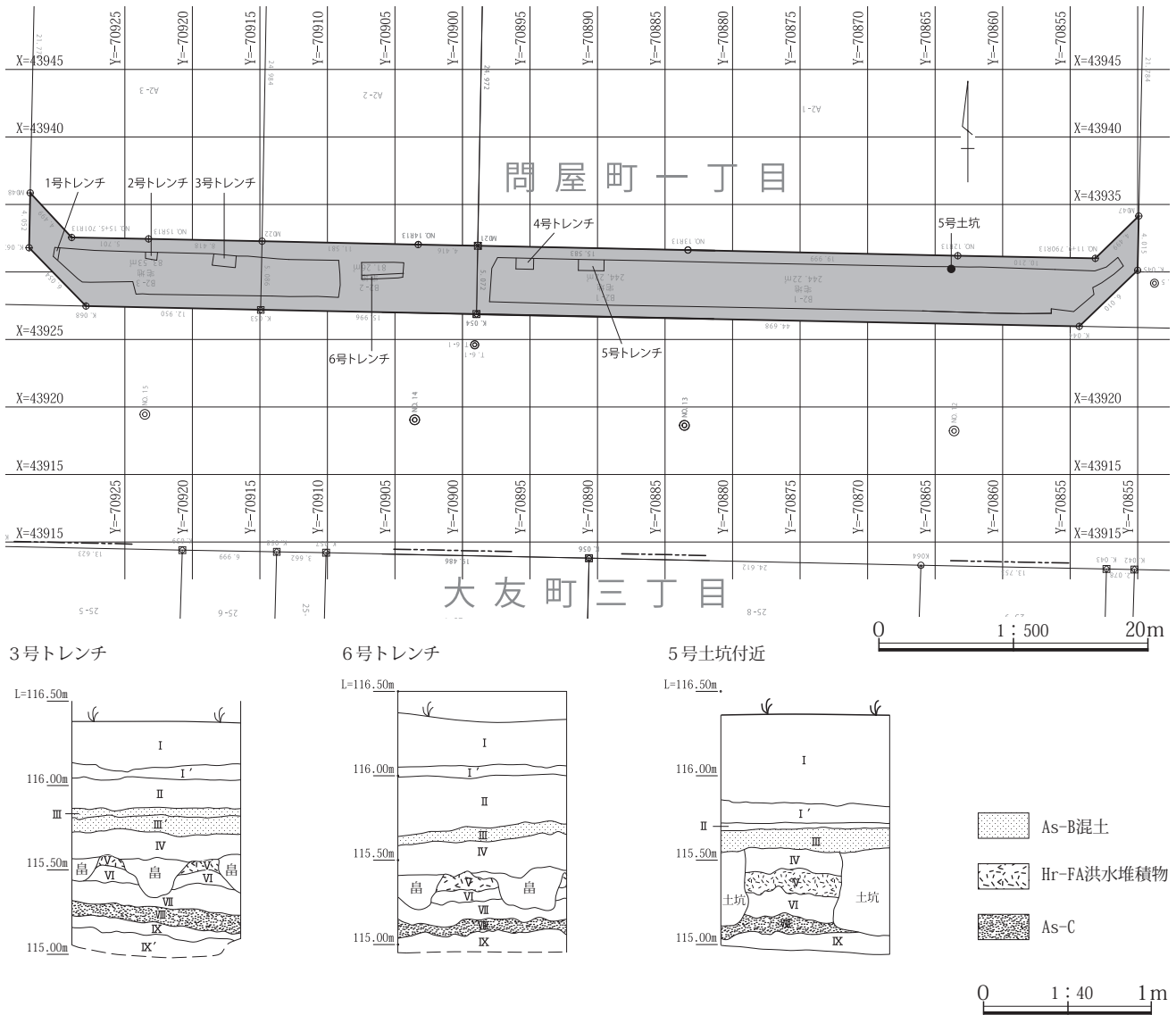
前橋市0149遺跡の基本土層は3号トレンチ・6号トレンチおよび5号土坑付近で確認したものである。

I 表土

- I' 褐灰色土10YR6/1 やや粘性有り。白色軽石・白色粒・黄橙色粒・小礫を少量含む。近世近代の耕作土か。
- II にぶい黄橙色土10YR6/4 明黄褐色鉄分沈着を大量、白色軽石・白色粒を多量に含む。場所により、鉄分沈着が褐灰色土を挟んで上下に分かれる。
- II' 褐灰色土10YR3/1 基本II層に鉄分沈着が含まれない層。
- III 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 やや灰色味帯びる。白色軽石・白色粒を多量に含む。磨耗した土師器片を含む。
- III' 暗褐色As-B混土10YR3/3 白色軽石・白色粒を中量、炭化物粒を若干含む。
- IV 褐灰色土10YR4/1 やや粘性有り。所々鉄分凝集があり、乾くと硬く締まる。白色軽石・白色粒を多量に含む。土師器・須恵器包含層。
- V 黄橙色Hr-FA洪水堆積物10YR7/8 黒褐色土を若干含む。
- VI 黒色土10YR2/1 やや粘性有。白色軽石・白色粒・黄橙色粒を若干含む。上面が1面。



第2図 前橋市0149遺跡の位置(国土地理院1:25000地形図「前橋」使用)



第3図 調査区とグリッド設定図・基本土層



写真 3号トレンチセクション

- Ⅶ 黒褐色As-C混土10YR3/1 やや淡くザラつく。
- Ⅷ As-C軽石層。(4世紀初頭)
- Ⅸ 黒色土10YR2/1 粘性有。白色粒・黄橙色粒を多量、赤褐色粒・炭化物粒を若干含む。上面が2面。
- Ⅸ' 黒褐色土10YR2/2 やや硬く締まる。白色粒・黄橙色粒を多量に含む。黄橙色の風化土器片を含む。

第3節 発掘調査の経過

前橋市0149遺跡の調査は平成30年12月3日から12月28日まで実施した。

表土掘削はバックフォーで行い、浅間B軽石(As-B)を含む混土層下面まで掘り下げた後、ジョレンを用いて遺構確認を行った。

次にHr-FAを含む洪水堆積物を掘り下げた後、同様に遺構確認を行った。遺構の調査は移植ごと、竹ベラと手ボウキを用いて丁寧に実施した。

遺構の測量は、測量業者に平断面図ともに委託して行った。遺構の測量は原則として平面図は1/40、断面図は1/20で行った。

写真撮影は、基本は、35mmデジタルカメラでの撮影を行い、重要度のある遺構については、中判カメラでのモノクロフィルムでの撮影を行った。航空写真については、発掘調査現場が市街地に所在し垂直写真を撮影することができないため、遺跡地の西から遠景撮影を実施した。

調査経過の概略は以下のとおりである。

平成30年

- 12月3日 表土掘削開始
- 4日 調査区西側遺構確認作業、FA混土畠確認
- 5日 調査区中央部遺構確認
- 6日 調査区東側遺構確認
- 10日 調査区西側、全景写真撮影
- 11日 調査区西側2面遺構確認
- 12日 調査区東側、2～9号土坑および1～6号ピット、2号畠調査
- 13日 1号溝精査
- 13日 空中写真撮影
- 17日 調査区西側及び東側、As-C検出
- 19日 調査区中央部遺構確認
- 20日 埋め戻し開始
- 28日 調査終了

第4節 整理作業の経過

整理事業については、文化財保護課の調整を受け、群馬県前橋土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、令和2年8月31日に、事業の委託契約が交わされた。同年9月1日より同事業団本部にて整理作業を開始した。

すでに洗浄・注記を済ませ、収納してあった遺物を遺構とその周辺遺構ごとに接合し、図化する個体を選定後、復元・写真撮影、実測・採拓、観察作業を行った。

実測は三次元計測器や長焦点の実測用写真を併用しながら行った。土器はロットリングによるトレース後、スキャニングによりデジタル化したものである。遺物写真は35mmフルサイズのデジタルカメラにより撮影後、色調等を調整した。

遺構図は、調査段階でデジタルデータ化しており、これを編集して完成図面とした。また、遺構写真は、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、色調等の調整後デジタル入稿用データを作成した。

これらの作業と並行して本文および観察表と原稿を執筆し、デジタルデータ化した遺構図・遺物図とあわせてアドビ社のインデザインによりデジタル入稿データを編集した。

11月30日に編集作業を完了し、出土遺物・図面・写真類の収納作業を終了した。そして令和3年1月に発掘調査報告書「前橋市0149遺跡」を刊行した。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の地形と立地

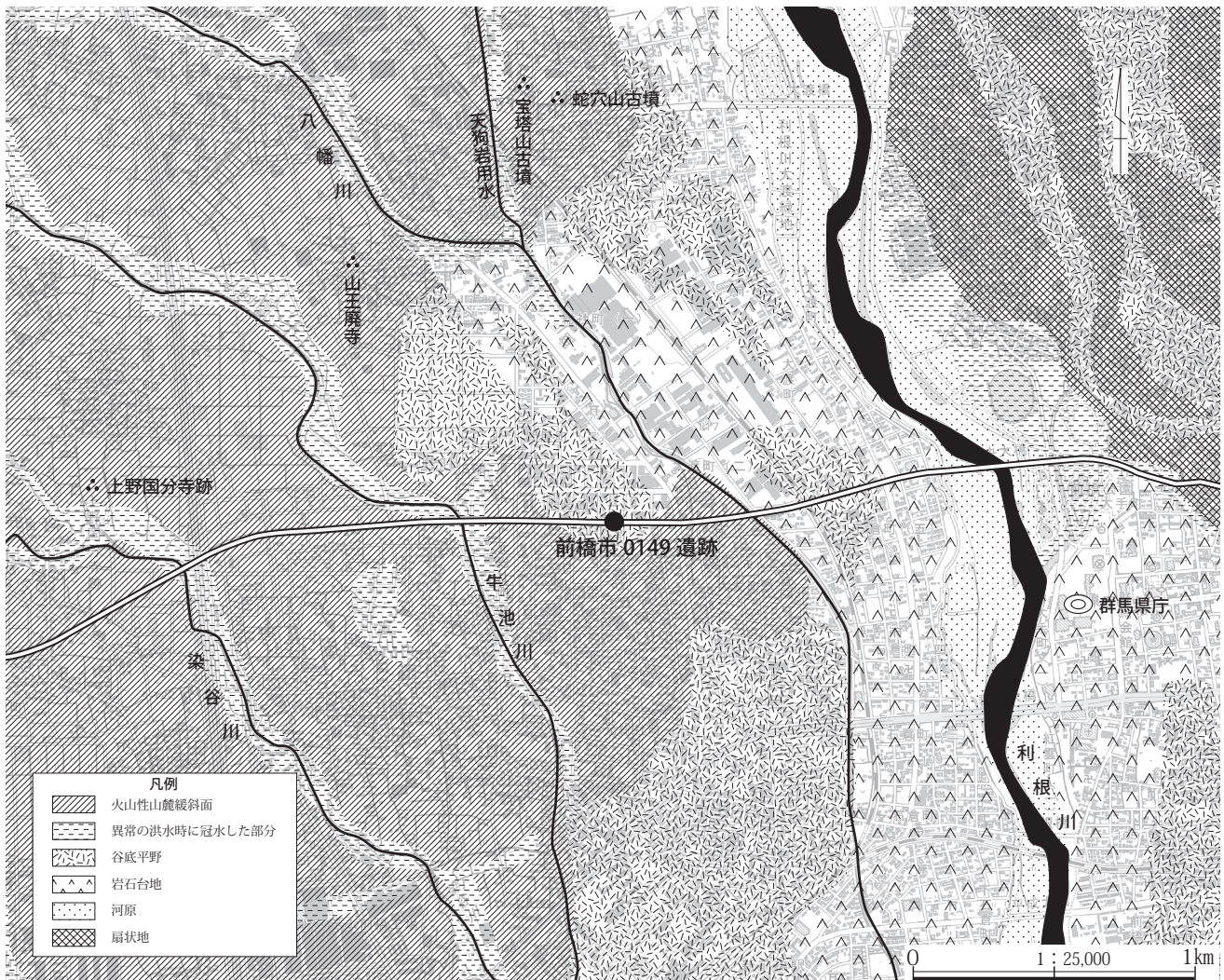
遺跡は群馬県庁から西へ約3.2kmの前橋市問屋町に所在し、標高は116mである。かつて周辺地域は主に畑地として利用されていたが、近年では元総社蒼海土地区画整理事業により宅地や商業施設が開発され、市街化が進んでいる。

遺跡は榛名山南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の扇端が前橋台地に移行する付近に立地する。

相馬ヶ原扇状地は、榛名山南東麓に約2万年前に形成された扇状地であり、山体崩落に伴う陣場岩屑なだれの堆積物により形成された。この堆積物には、斜長石と斜

方輝石を斑晶として含む輝石安山岩が多く認められる。その範囲は、標高600m付近を扇頂として扇端地は標高110m付近に達し、北は渋川市南部から榛東村、吉岡町、高崎市箕郷町北東部、旧群馬町にわたる。

前橋台地は、約2.4万年前に形成された緩斜面の台地であり、利根川が赤城山と榛名山の山麓の間から関東平野に流れ出る場所に広がっている。前橋台地は前橋泥流により形成され、その層位や分布域、含まれる岩石の特徴から、浅間山の山体崩落による堆積物に由来していることが明らかにされている。



第4図 遺跡周辺の地形(土地分類基本調査「前橋」から作成)

第2節 周辺遺跡の分布

本遺跡の調査によって確認された遺構は、古墳時代から中・近世にかけての時代である。半径2km以内の範囲には、上野国分寺跡を始め、蛇穴山古墳・宝塔山古墳・王山古墳を中心とする総社古墳群、山王廃寺跡などが存在し、この地域が古代上野国の中心であったことがうかがえる。各時代の主な遺跡は、以下のとおりである。

旧石器時代 旧石器時代の遺構は、遺跡地周辺では確認されていない。

縄文時代 産業道路東遺跡【2】では中期後半の竪穴建物が、産業道路西遺跡【3】からは後期前半の石囲い炉が確認されている。また、元総社蒼海遺跡群(9)【18】では、晩期の竪穴建物が検出されている。

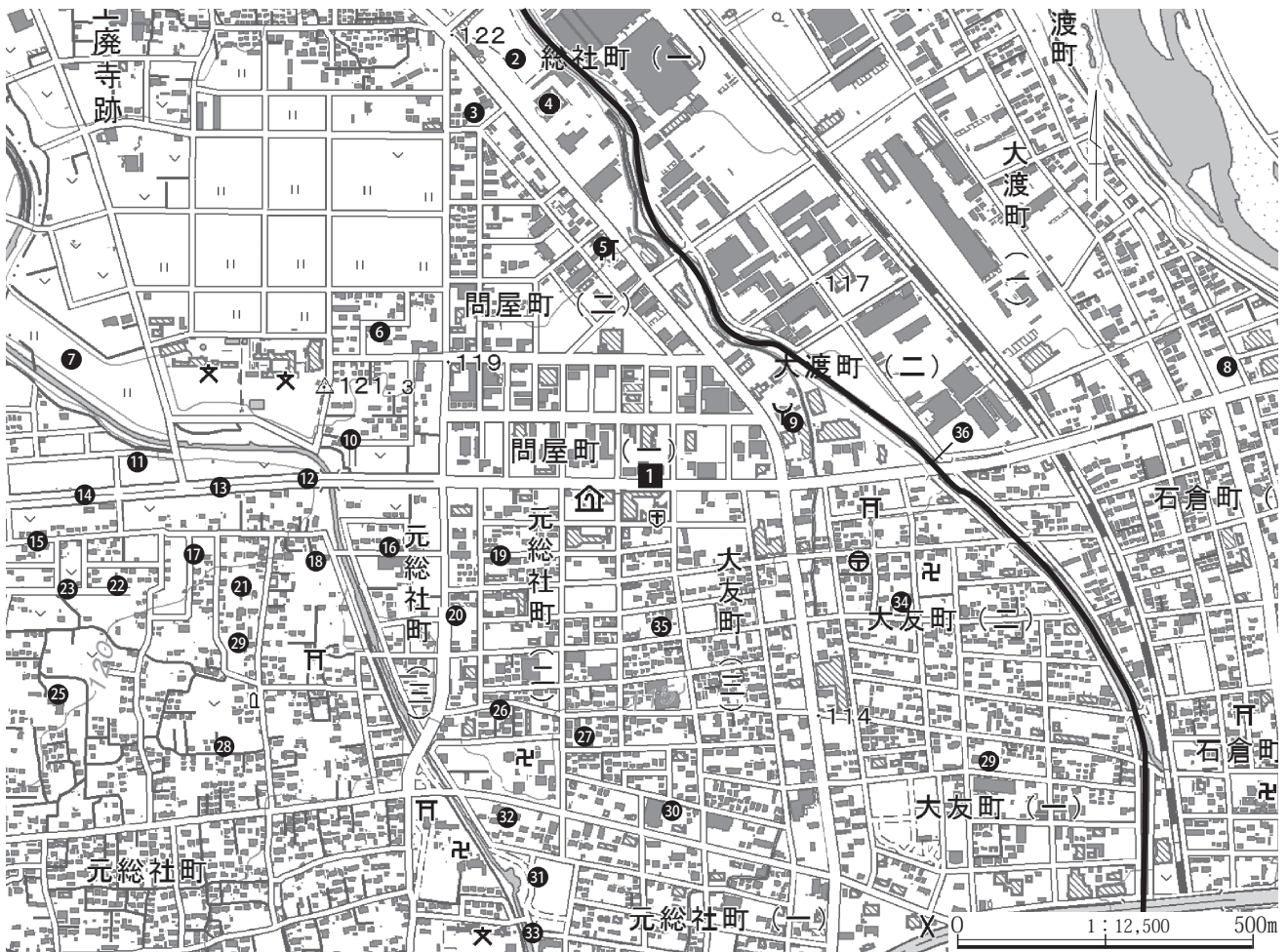
弥生時代 本遺跡周辺では、遺物の散布は見られるものの、遺構は検出されていない。

古墳時代 総社古墳群を中心に数多くの古墳が築造され

る。周辺には6世紀前半の王山古墳【8】、6世紀後半の稲荷山古墳【5】が所在する。集落は、稲荷塚道東遺跡【4】で前期～後期の竪穴建物が確認されている。この時期の生産遺跡も調査例が増加し、水田跡が元総社北川遺跡【7】・総社閑泉明神北遺跡【16】・元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅲ【31】・元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ【33】から、畠跡が総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡【10】・総社閑泉明神北遺跡【16】から検出されている。

奈良・平安時代 集落遺跡は、染谷川と牛池川に挟まれた台地上に分布する。閑泉樋南遺跡【20】・総社甲稲荷塚大道西遺跡【6】などでは竪穴建物が検出されている。また近年の調査では、上野国府に関わる大溝も確認されている。元総社蒼海遺跡群(9)・(10)【18】・閑泉樋遺跡【19】では東西方向の、元総社明神遺跡(地図外)では南北方向の大溝が調査された。

中・近世 大渡道場遺跡【9】では貨幣埋納遺構から572枚におよぶ銭貨が「縉」の状態出土している。



第5図 周辺の遺跡(国土地理院1:25000地形図「前橋」使用)

近年、元総社蒼海遺跡群などの発掘調査により、堀・郭・建物跡などの遺構が検出例が増加している。上野国府跡を利用した山内上杉氏家宰総社長尾氏の居城蒼海城【25・28他】、大友城【34】、村上佐渡守が築いたとされる

村山城【35】などが存在する。

江戸時代には、現在でも農業用水として利用されている天狗岩用水が、秋元長朝によって開削された。

第1表 前橋市0149遺跡の周辺遺跡

No.	遺跡名	縄文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世	文献
1	前橋市0149遺跡				○			本報告書
2	産業道路東遺跡	○						文献「前橋市史」第1巻
3	産業道路西遺跡	○						
4	稲荷塚道東遺跡			○	○			群埋文2006『稲荷塚道東遺跡』
5	稲荷山古墳(丁間稲荷山古墳)			○				群馬県1981『群馬県史 資料編3』
6	総社甲稲荷塚大道西遺跡				○	○	○	市埋文2002『総社甲稲荷塚大道西遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡			○	○		○	
7	元総社北川遺跡			○	○	○		群埋文2006『総社閑泉明神北4遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内5遺跡』
8	王山古墳			○				市教委1975『文化財調査報告書5』
9	大渡道場遺跡・大渡道場遺跡No.2	○		○	○	○		市教委2011『大渡道場遺跡』、2016『大渡道場遺跡No.2』
10	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡			○	○			市埋文2003『総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡 総社閑泉明神北Ⅲ遺跡』
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	○		○	○			
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡			○		○		
11	元総社小見内Ⅲ遺跡			○	○	○		市埋文2003『元総社小見内Ⅲ遺跡 元総社草作Ⅴ遺跡』
12	元総社蒼海遺跡群(19)			○		○		市埋文2008『元総社蒼海遺跡群(14) 元総社蒼海遺跡群(19)』
13	元総社蒼海遺跡群(30)							市埋文2010『元総社蒼海遺跡群(30)』
14	元総社蒼海遺跡群(5)			○	○	○		市埋文2006『元総社蒼海遺跡群(5)』
15	元総社小見内Ⅳ遺跡				○	○		市埋文2003『元総社小見内Ⅳ遺跡』
16	総社閑泉明神北遺跡			○		○		市埋文2004『総社閑泉明神北遺跡』
17	元総社蒼海遺跡群(23)			○	○	○		市埋文2009『元総社蒼海遺跡群(23)』
18	元総社蒼海遺跡群(9)・(10)			○	○			市埋文2007『元総社蒼海遺跡群9・10』
19	閑泉樋遺跡				○			市教委1983『文化財調査報告書13』
20	閑泉樋南遺跡			○	○			市埋文1986『閑泉樋南遺跡』
21	元総社宅地遺跡			○	○	○	○	市埋文2001『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』
22	元総社小見内Ⅷ遺跡				○	○		市埋文2004『元総社蒼海遺跡群 元総社小見内Ⅷ遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』
23	元総社小見内Ⅹ			○	○	○		市埋文2004『元総社小見内Ⅹ』
24	元総社蒼海遺跡群(14)			○	○			市埋文2008『元総社蒼海遺跡群(14) 元総社蒼海遺跡群(19)』
25	草作遺跡			○	○	○		市埋文1985『草作遺跡』
26	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡			○	○	○		市教委1987『屋敷遺跡』 市埋文1996『屋敷Ⅱ遺跡』
27	堰越Ⅱ遺跡				○			スナガ環境測定株式会社1988『堰越Ⅱ遺跡』
28	元総社蒼海遺跡群(21)				○	○		市埋文2009『元総社蒼海遺跡群(21)』
29	大友宅地添遺跡				○			市埋文1999『大友宅地添遺跡』
30	堰越遺跡				○			山武考古学研究所1988『堰越遺跡発掘調査報告書』
31	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅡ			○	○	○		市埋文1983『元総社明神遺跡Ⅰ』ほか
32	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡			○	○			スナガ環境測定株式会社1988『大友屋敷Ⅱ遺跡』『大友屋敷Ⅲ遺跡』
33	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ			○	○	○		群埋文1993・1994・1996『元総社寺田遺跡Ⅰ』『元総社寺田遺跡Ⅱ』『元総社寺田遺跡Ⅲ』
34	大友城					○		
35	村山城					○		
36	天狗岩用水(滝川)						○	

第3章 調査された遺構と遺物

第1節 調査の概要

前橋市0149遺跡の調査は、平成30年度に実施した。既存の道路の拡幅工事に伴う調査のため、調査区は東西に細長く、幅5m、長さ82mにおよぶ。調査範囲の中央部のY=-70865～70900にかけては攪乱のため遺構が存在しなかった(第6図・PL. 8)。そのため、調査区の東西両端を調査の対象とした。

調査は、As-Bを含む灰褐色土下面を第1面、Hr-FAを含む褐色土下面を第2面として実施した。検出された遺構は、土坑12基、ピット10基、畝2面、溝3条である。

土坑とピットは調査区の東側に集中しており、形状は隅丸方形、長方形などさまざまである。これらのうち、底面から遺物の出土した遺構は8号土坑のみで、9世紀代の須恵器杯と椀を確認した。その他の遺構は出土遺物が少なく、調査範囲も限られているため、機能や性格を明らかにすることはできなかった。ピットは比較的新しいものが多く、12世紀以降であると考えられる。

溝は3条検出したが、うち2条は調査区的最東端と最西端に位置するため、全容を調査することはできなかった。

畝は調査範囲の両端で検出した。畝間のサクにあたる溝状の遺構で、Hr-FAを含む洪水堆積物を掘削し、一部はAs-C層までおよんでいた。西調査区の畝はサクの間隔が不定であり、複数の時期の耕作であると考えられる。

第2節 遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑(第7図 PL. 2)

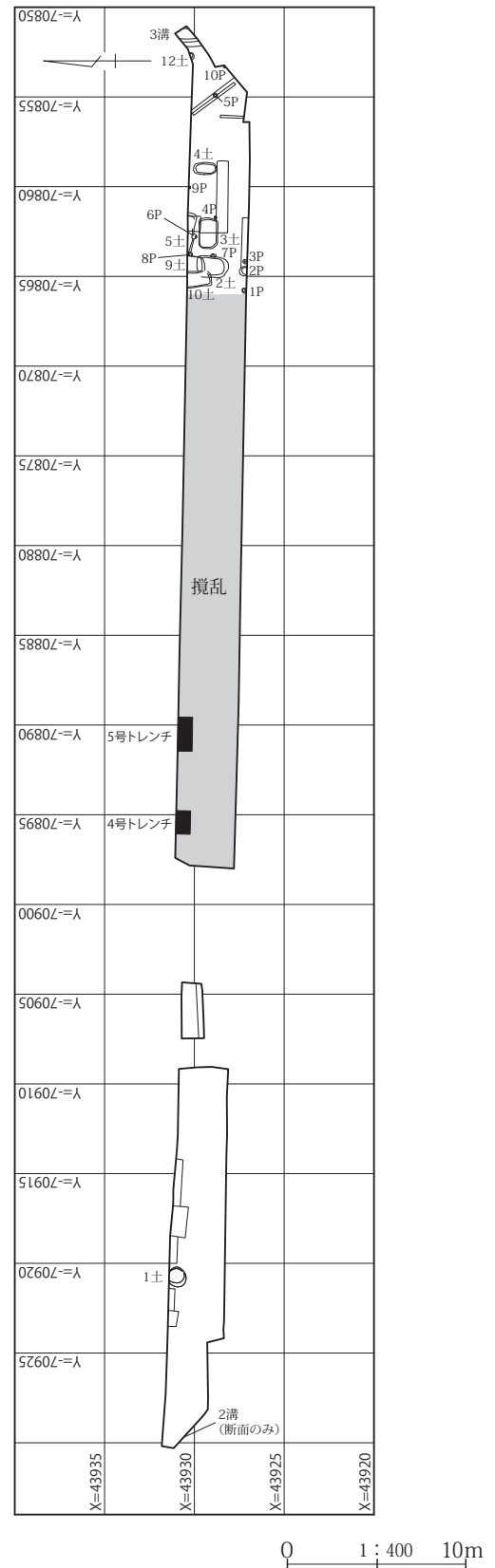
位置 X=43931 Y=-70921

重複 2号畝に後出する。

平面形 ほぼ円形 長軸方位 N-80°-E

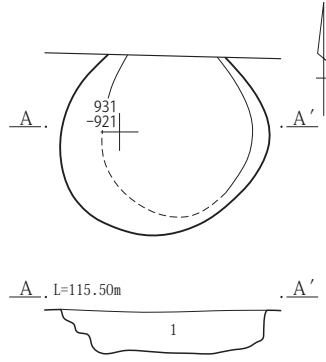
規模 長軸1.11m 短軸(0.95)m 深さ0.25m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土はAs-Bを含む灰黄褐色土を主体とし、自然埋没していた。断面形は台



第6図 前橋市0149遺跡第1面全体図

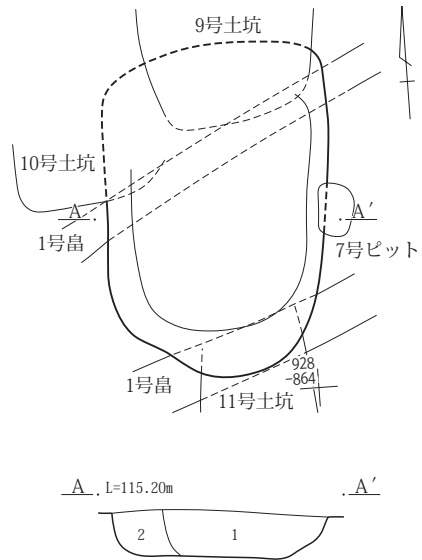
1号土坑



1号土坑

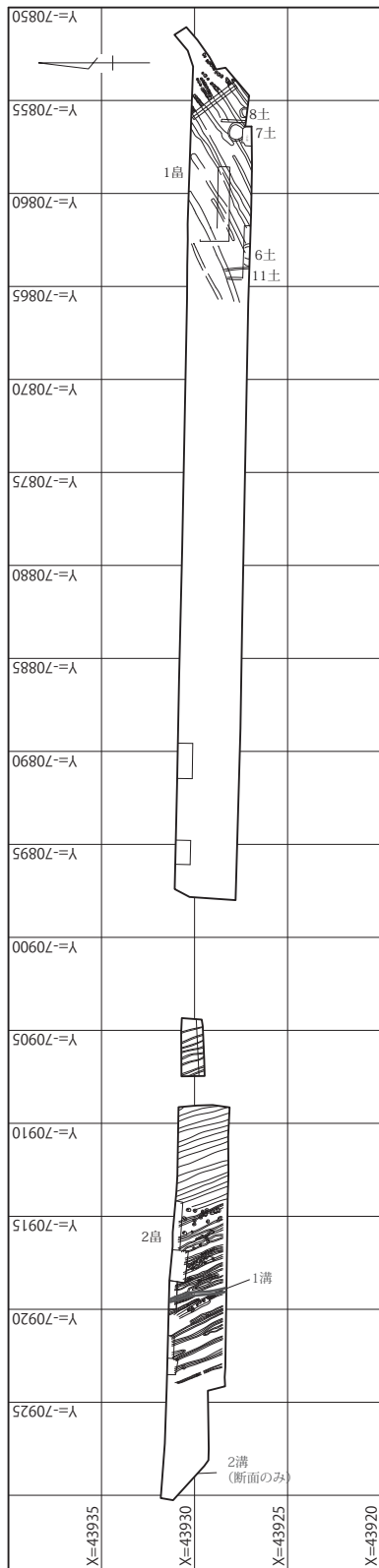
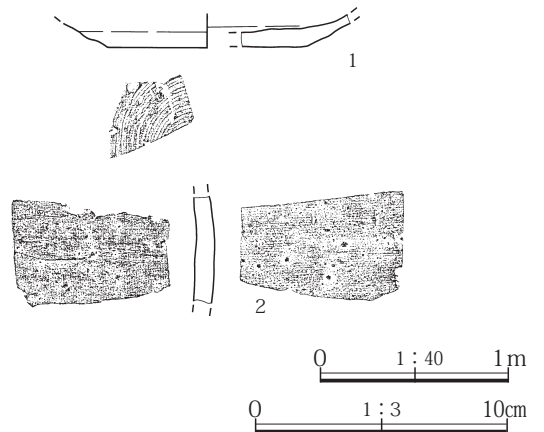
1 基本Ⅲ層由来の自然堆積層。白色粒・白色軽石を中量、褐灰色粘質ブロック土を若干含む。

2号土坑



2号土坑

1 暗褐色As-B混土10YR3/4 基本Ⅲ層に下位層が多く混じる人為埋没層。白色粒・黄橙色粒を多量、白色軽石・FAブロック・黒色粘質ブロック土を少量含む。
2 1層に黒色粘質ブロック土が多量に混じる。



0 1:400 10m

第7図 第2面全体図、1・2号土坑と出土遺物

形である。

出土遺物 埋土中から土師器片が4点出土した。いずれも小片のため実測・図示できなかった。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

2号土坑(第7図 PL. 2 第3表)

位置 X=43928 Y=-708645

重複 11号土坑、1号畠に後出する。9・10号土坑、7号ピットとの新旧関係は不明である。

平面形 隅丸長方形か **長軸方位** N-90°

規模 長軸(1.76)m 短軸10m 深さ0.28m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む灰黄褐色土を主体とし、FAブロックや黒色粘質土

ロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 埋土中から須恵器皿(第7図1)と須恵器壺の胴部片(同図2)が出土した。図示した遺物以外に埋土中から、土師器片1点と須恵器片2点が出土している。

調査所見 須恵器皿は9世紀後半代の所産であるが、遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

3号土坑(第8図 PL. 2 第3図)

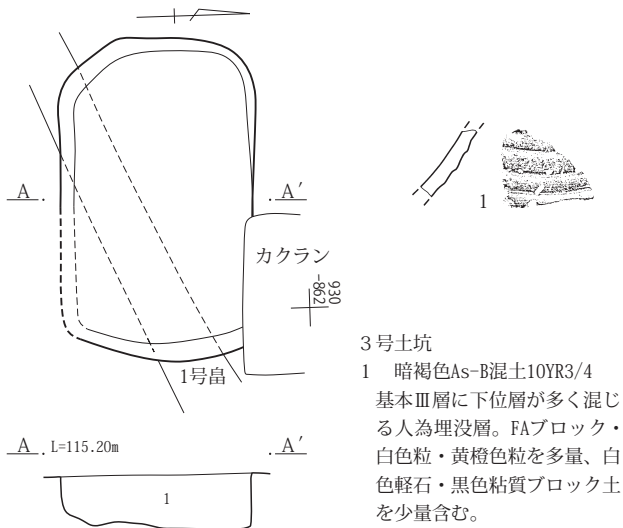
位置 X=43930 Y=-70862

重複 1号畠に後出する。

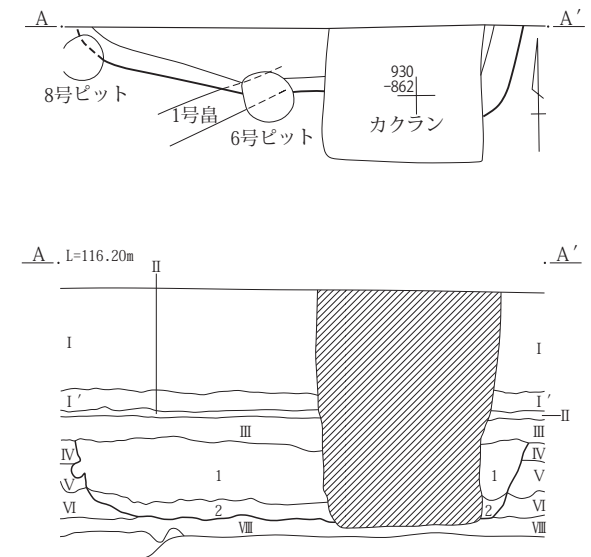
平面形 隅丸長方形 **長軸方位** N-88°-W

規模 長軸1.71m 短軸1.02m 深さ0.31m

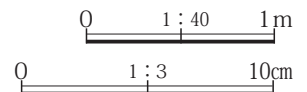
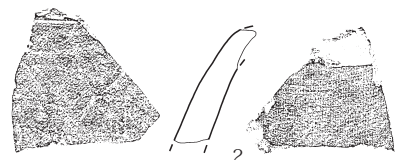
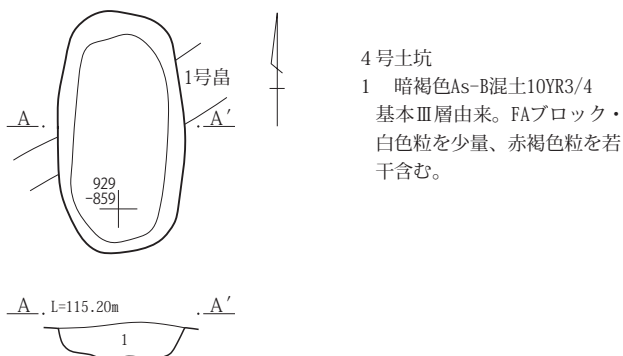
3号土坑



5号土坑



4号土坑



第8図 3・4・5号土坑と出土遺物

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む暗褐色土を主体とし、FAブロックや黒色粘質土ブロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 埋土中から須恵器椀(第8図1)が出土した。図示した遺物以外に埋土中から、土師器片1点と須恵器片1点が出土している。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

4号土坑(第8図 PL. 2)

位置 X=43929 Y=-70859

重複 1号畠に後出する。

平面形 隅丸長方形 **長軸方位** N-4°-E

規模 長軸1.27m 短軸0.67m 深さ0.17m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む暗褐色土を主体とし、FAブロックや黒色粘質土ブロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

5号土坑(第8図 PL. 3 第3表)

位置 X=43930 Y=-70860

重複 1号畠に先行する。6・8号ピットとの新旧関係は不明である。

平面形 隅丸長方形か **長軸方位** N-80°-W

規模 長軸(2.26)m 短軸(0.34)m 深さ0.19m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む暗褐色土を主体とし、FAブロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 埋土中から須恵器甕の頸部片(第8図2)が出土した。図示した遺物以外に埋土中から、土師器片5点と須恵器片1点が出土している。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

6号土坑(第9図 PL. 3)

位置 X=43927 Y=-70862

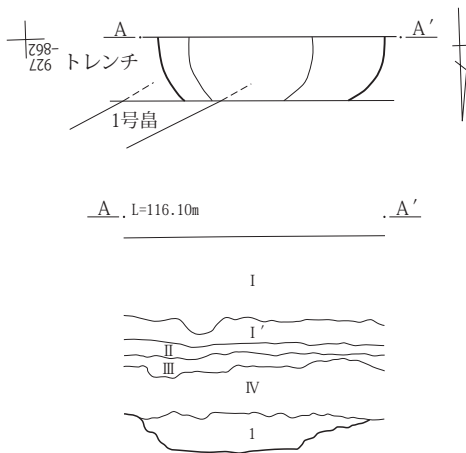
重複 1号畠と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形 ほぼ円形か **長軸方位** -

規模 長軸(1.20)m 短軸(0.27)m 深さ(0.20)m

検出・埋没状況 第2面で検出した。埋土は、褐灰色土を主体とし、FAブロックが混入する。断面形は台形である。未完掘である。

6号土坑

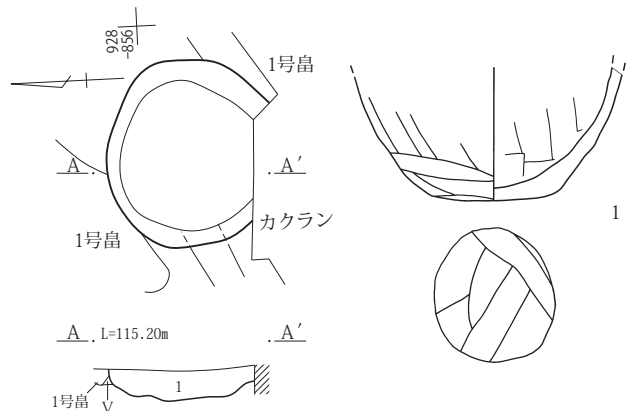


6号土坑

I~IV 基本土層

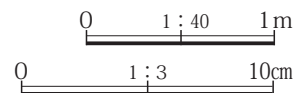
1 暗褐色土10YR3/3 基本IV層由来、FAブロックを多量に含む。

7号土坑



7号土坑

1 褐灰色土10YR4/1 基本IV層由来、下位に黒色ブロック土・FAブロックを多量に含む。



第9図 6・7号土坑と出土遺物

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代と考えられる。

7号土坑(第9図 PL. 3 第3表)

位置 X=43928 Y=-70856

重複 1号畠に後出する。

平面形 ほぼ円形 **長軸方位** N-71°-E

規模 長軸1.00m 短軸(0.82)m 深さ0.15m

検出・埋没状況 第2面で検出した。埋土は、褐灰色土を主体とし、FAブロックや黒色粘質土ブロックが混入する。人為的な埋没と考えられ、断面形は弧状である。

出土遺物 埋土中から土師器小型甕底部片(第9図1)が出土した。図示した遺物以外に埋土中から、土師器片4点と須恵器片4点が出土している。

調査所見 土師器小型甕は古墳時代後期の所産であるが周辺からの混入の可能性が高い。遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代と考えられる。

8号土坑(第10図 PL. 3 第3表)

位置 X=43927 Y=-70856

重複 1号畠と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形 ほぼ円形か **長軸方位** N-58°-W

規模 長軸0.57m 短軸0.43m 深さ0.15m

検出・埋没状況 第2面で検出した。埋土は、褐灰色土を主体とし、FAブロックを混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 土坑の底面から須恵器杯(第10図1)、土師器杯(同図2)、須恵器椀(同図3)、黒色土器椀(同図4)が出土した。図示した遺物以外に埋土中から、土師器片1点と須恵器片5点が出土している。

調査所見 遺構の確認状況および出土遺物から、本遺構の所属時期は9世紀中頃と考えられる。

9号土坑(第10図 PL. 3)

位置 X=43930 Y=-70865

重複 1号畠に後出する。2号土坑、8号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

平面形 長方形か **長軸方位** N-90°

規模 長軸(0.96)m 短軸0.93m 深さ0.15m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む灰黄褐色土を主体とし、黒褐色土ブロックやFAブロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

10号土坑(第10図 PL. 3)

位置 X=43930 Y=-70865

重複 1号畠に後出する。2号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形 長方形か **長軸方位** N-10°-W

規模 長軸(1.35)m 短軸(0.77)m 深さ0.15m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む灰黄褐色土を主体とし、黒褐色土ブロックやFAブロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

11号土坑(第10図 PL. 3)

位置 X=43925~43935・Y=-70850~-70925

重複 2号ピットに先行し、1号畠に後出する。2号土坑、3号ピットとの新旧関係は不明である。

平面形 長方形か **長軸方位** N-3°-E

規模 長軸1.30m 短軸0.63m 深さ0.10m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む灰黄褐色土を主体とし、FAブロックや黒色粘質土ブロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

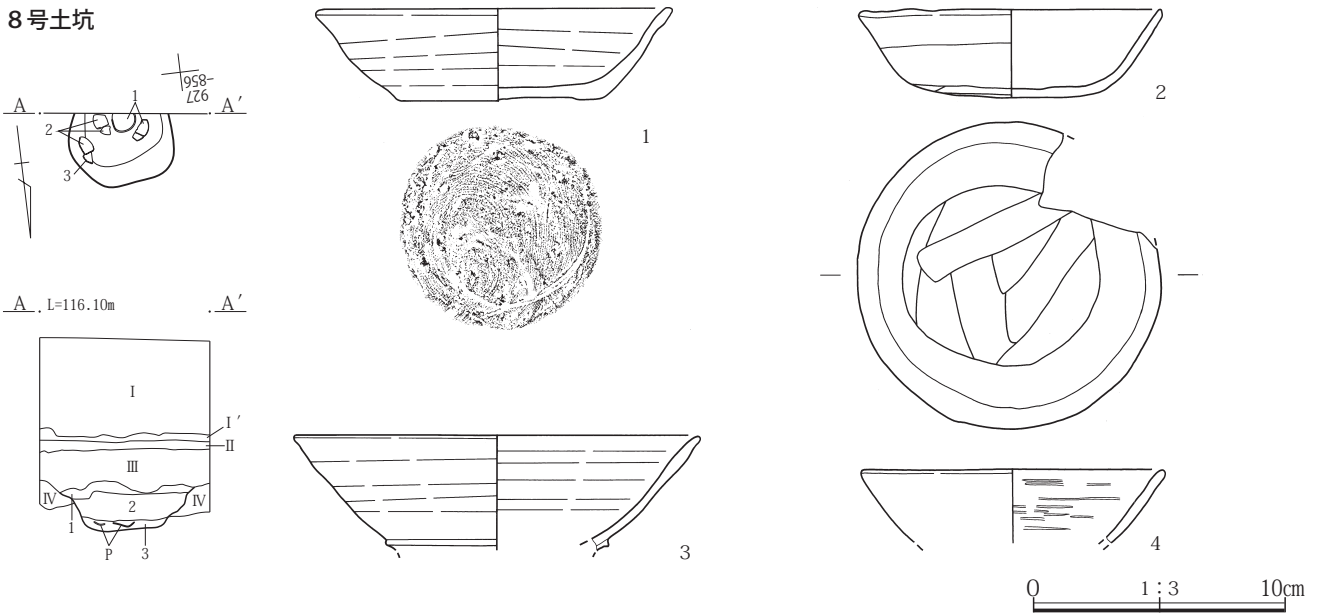
12号土坑(第10図 PL. 4)

位置 X=43930 Y=-70853

重複 なし。

平面形 円形か **長軸方位** N-71°-E

8号土坑

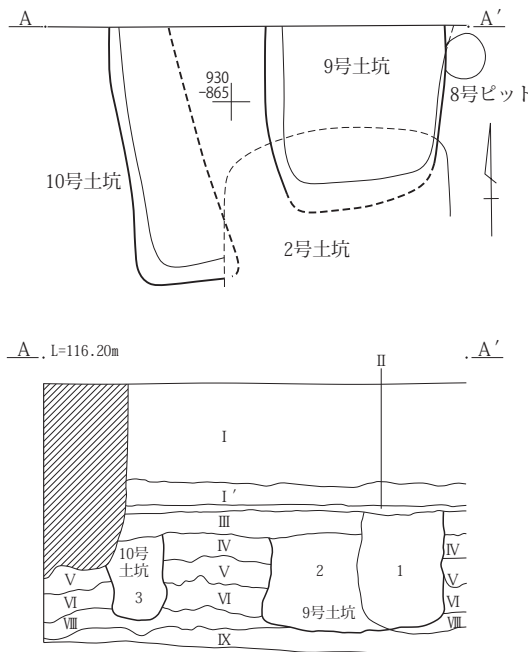


8号土坑

I~IV 基本土層

- 1 褐灰色土10YR4/1 基本IV層由来、軟らかい。
- 2 褐灰色土10YR4/1 基本IV層由来、FAブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土10YR2/2 FAブロックを多量に含む。

9・10号土坑

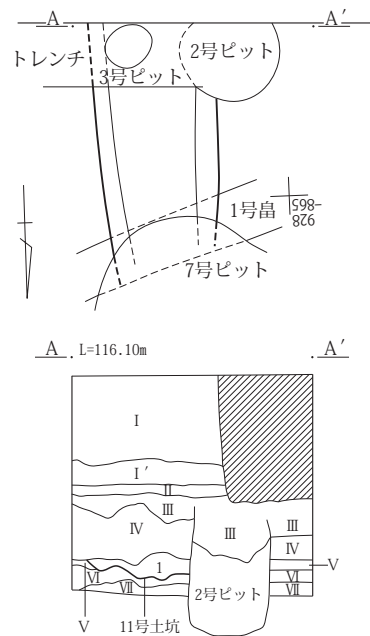


9・10号土坑

I~IX 基本土層

- 1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 9号土坑埋土。黒褐色ブロック土を大量、FAブロックを多量に含む。ピットか。
- 2 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 9号土坑埋土。黒褐色ブロック土・FAブロックを多量に含む。
- 3 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 10号土坑埋土。黒褐色ブロック土・FAブロックを多量に含む。

11号土坑

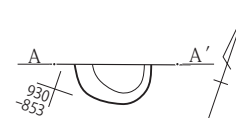


11号土坑

I~VII 基本土層

- 1 暗褐色土10YR3/3 基本IV層由来。FAブロックを多量に含む。

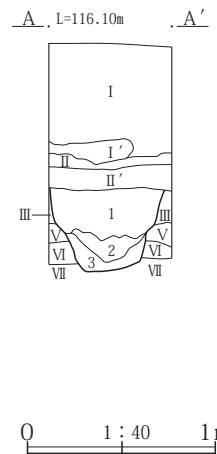
12号土坑



12号土坑

I~VII 基本土層

- 1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 FAブロックを若干含む。
- 2 褐灰色土10YR4/1 FAブロックを若干含む。
- 3 褐灰色土10YR4/1 FAブロックを多量に含む。



0 1:40 1m

第10図 8~12号土坑と出土遺物

規模 長軸0.41m 短軸(0.20)m 深さ0.25m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土は、As-Bを含む灰黄褐色土を主体とし、FAブロックや黒色粘質土ブロックが混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

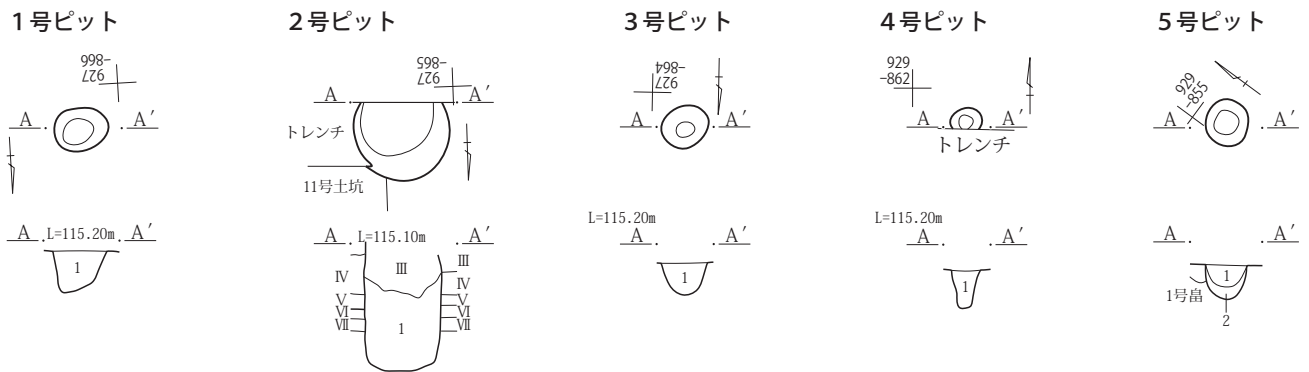
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は12世紀以降と考えられる。

(2)ピット(第11図 PL. 4~6)

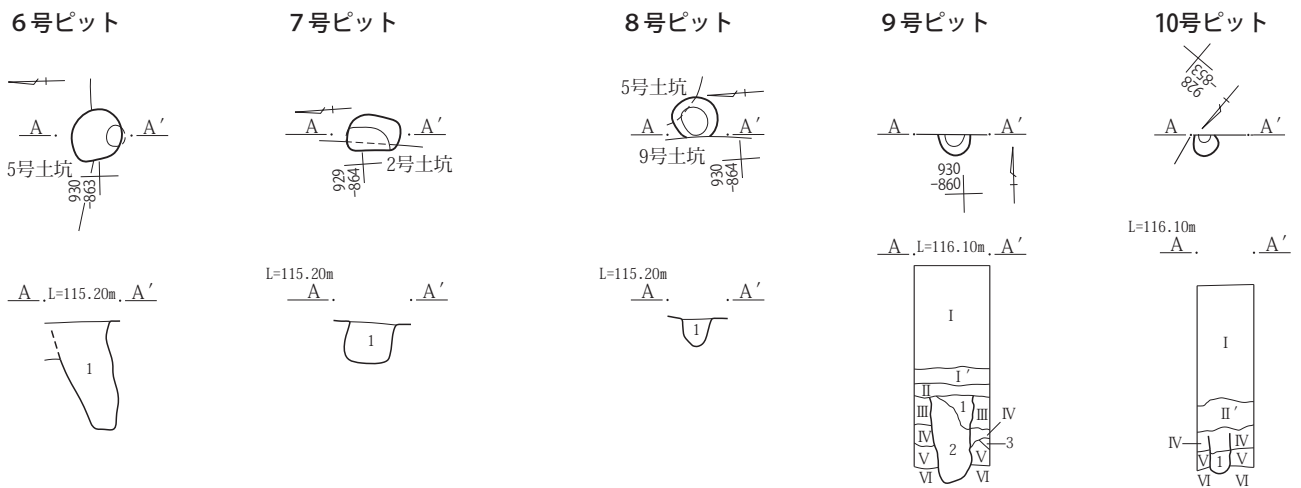
ピットは10基、調査区東側で検出された。調査範囲が限られているため、掘立柱建物や柵などの規則性は認められない。埋土や遺構の確認状況からいずれも中・近世であると考えられる。

詳細はP.18の第2表に示す。



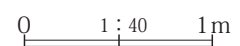
- 1号ピット
1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロック・赤褐色粒を若干含む。
2号ピット
Ⅲ~Ⅶ 基本土層
1 暗褐色土10YR3/4 黒色ブロック土・Hr-FAブロックを多量に含む。
3号ピット
1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロック・赤褐色粒を若干含む。

- 4号ピット
1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロック・赤褐色粒を若干含む。
5号ピット
1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロックを若干含む。
2 褐灰色土10YR4/1 黒色ブロック土・Hr-FAブロックを多量に含む。



- 6号ピット
1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロック・赤褐色粒を若干含む。
7号ピット
1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロック・赤褐色粒を若干含む。
8号ピット
1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロック・赤褐色粒を若干含む。
9号ピット
Ⅰ~Ⅵ 基本土層

- 1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 Hr-FAブロックを若干含む。
2 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 黒色ブロック土・Hr-FAブロックを多量に含む。
10号ピット
Ⅰ~Ⅵ 基本土層
1 基本土層ⅢとⅣの混土 Hr-FAブロックを少量含む。



第11図 1~10号ピット

(3) 畠

1号畠(第12図 PL. 6)

位置 X=43927~42931、Y=-70852~70865

重複 複数の土坑やピットと重複している。遺構の検出状況から、本遺構が最も先行している。

形状 ほぼ直線の12条のサクが確認できた。未完掘ではあるが、深さは0.07m~0.12mである。

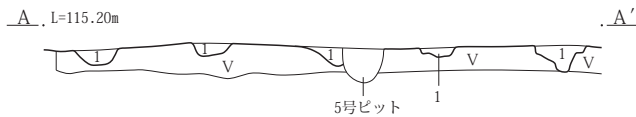
検出・埋没状況 第2面で検出した。埋土は、黒褐色土にHr-FAブロックを多く含んでいた。調査区的最も東では、工具痕を検出した。

調査所見 サクとサクとの間隔に規則性がないため、複数の時期が考えられる。遺物の出土がないため正確な時期は不明であるが、遺構の検出状況および埋土から、時期は6世紀初頭以降と考えられる。

2号畠(第13図 PL. 6・7)

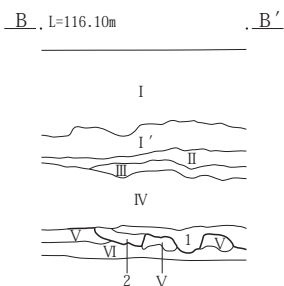
位置 X=43928~43932 Y=-70904~70924

重複 1号土坑に先行し、1号溝に後出する。



1号畠A-A'

1 黒褐色土10YR2/3 やや茶のHr-FA上畠耕作土。Hr-FAブロック土を多量、白色粒を少量含む。

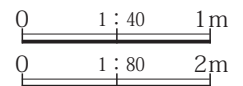
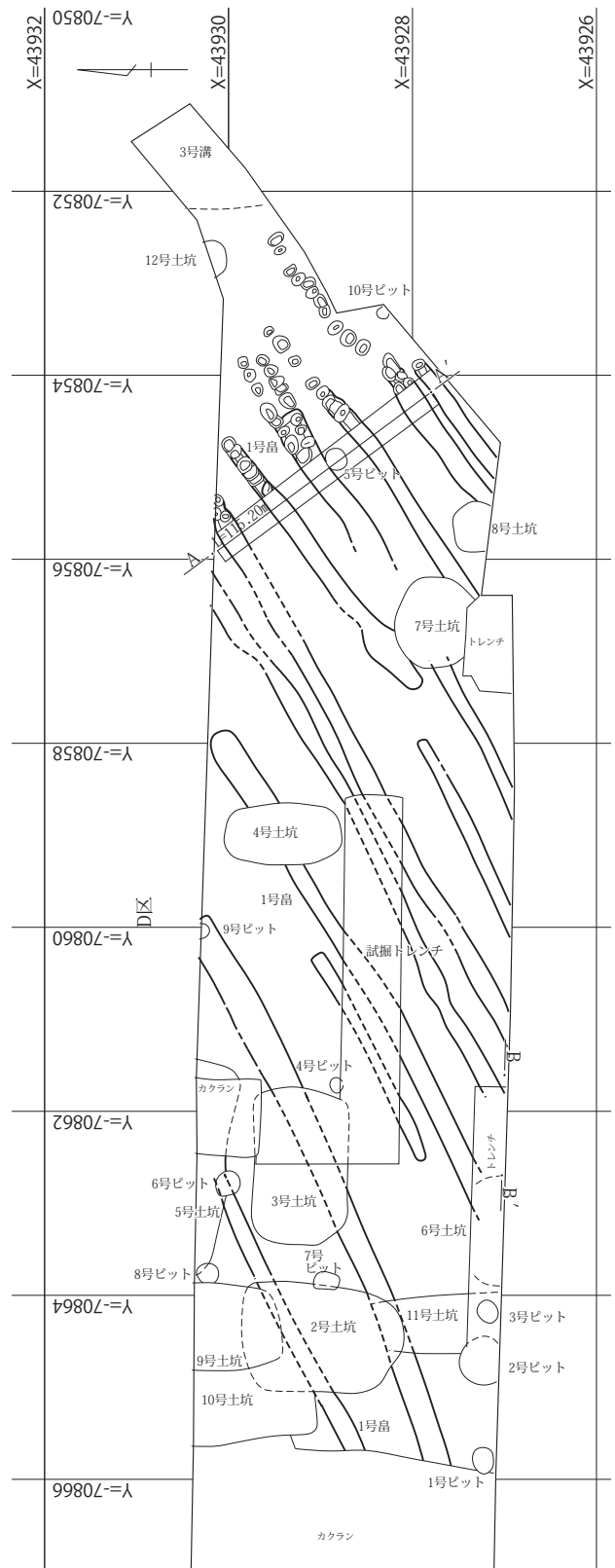


1号畠B-B'

I~VII 基本土層

1 暗褐色土10YR3/3 基本IV層に似るが上位が硬く締まった層。

2 黒褐色土10YR2/3 やや茶のHr-FA上畠耕作土。Hr-FAブロック土を多量、白色粒を少量含む。

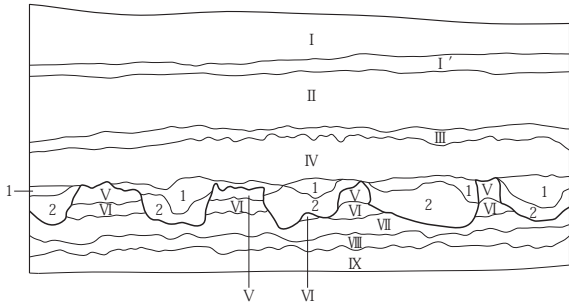


第12図 1号畠

形状・規模 ほぼ直線の37条のサク状痕が確認できた。途切れて長さが短いサクもあるが、完掘した西側の23条のサクは、深いところで0.12mほどの掘り込みを有する。幅は0.11m~0.43mで、サクとサクの間隔は一定ではない。東側14条のサクは未完掘で、幅は0.12m~0.59m、深さは0.20mほどである。

検出・埋没状況 第2面で検出した。黒褐色土を主体とし、Hr-FAブロックが混入している。

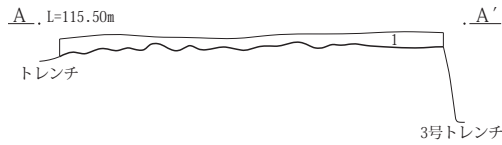
D, L=116.50m D'



2号畠D-D'

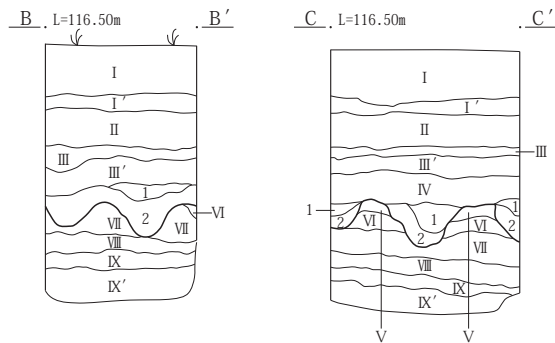
I~IX 基本土層

- 1 黒褐色土10YR3/1 やや淡い。白色軽石・白色粒を多量に含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 やや明るいHr-FA洪水後の攪拌層。Hr-FAブロック・白色軽石・白色粒を中量含む。



2号畠A-A'

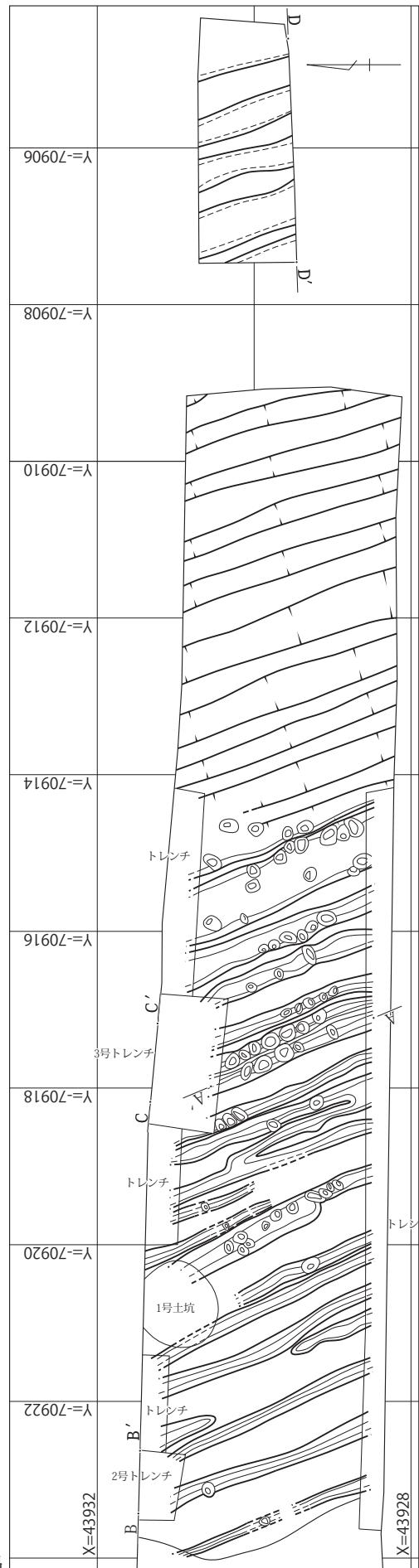
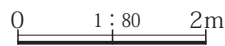
- 1 黒褐色土10YR3/2 やや明るいHr-FA洪水後の攪拌層。Hr-FAブロック・白色軽石・白色粒を中量含む。



2号トレンチB-B'・3号トレンチC-C'

I~IX' 基本土層

- 1 黒褐色土10YR3/1 やや淡い。白色軽石・白色粒を多量に含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 やや明るいHr-FA洪水後の攪拌層。Hr-FAブロック・白色軽石・白色粒を中量含む。



第13図 2号畠

出土遺物 なし。

調査所見 サクとサクとの間隔に規則性がないため、複数の時期が考えられる。遺構の検出状況および埋土から、時期は6世紀初頭以降と考えられるが詳細な時期は不明である。

(4) 溝

1号溝(第12図 PL.7)

位置 X=43928~43930 Y=-70918~-70920

重複 2号畠に先行する。

形状 ほぼ直線 走向 N-10°-W

規模 調査長 3.10m 最大幅 0.19m 深さ 0.11m 底面比高 南端が0.05m高い。

検出・埋没状況 第3面で検出した。埋土は褐灰色の砂層で、As-Cを含んでいる。断面形は三角形。

出土遺物 なし。

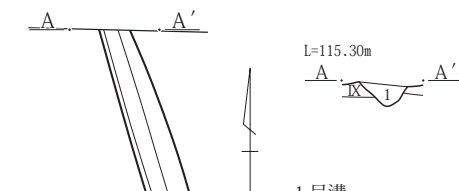
調査所見 埋土に砂を含んでいるため水路または自然の流路と判断される。遺構の検出状況から時期は古墳時代前葉であると考えられる。

2号溝(第12図 第3表 PL.7・8)

位置 X=43929~43932 Y=-70928~-70930

重複 なし。

1号溝

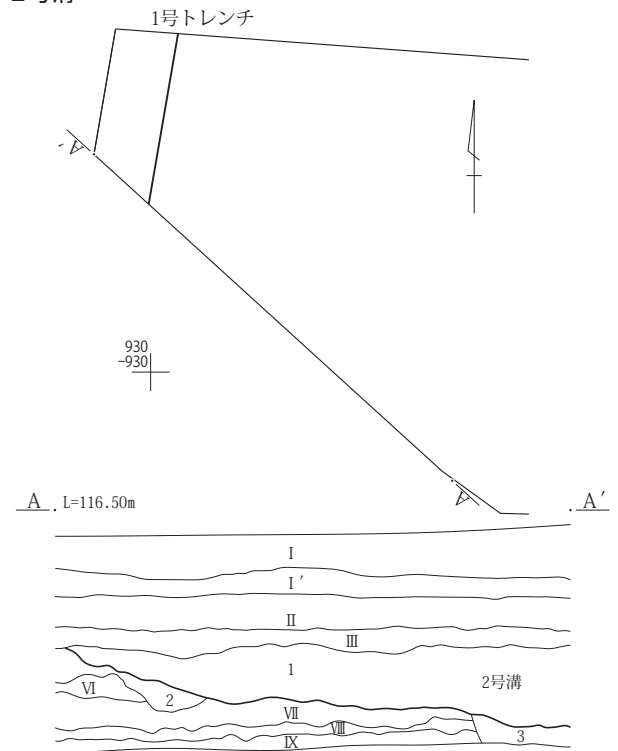


1号溝
1 褐灰色粗粒砂層10YR6/1 As-Cをラミナ状に含む。

3号溝
I~IX 基本土層

- 1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 白色粒を少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 軟らかい砂質土。

2号溝

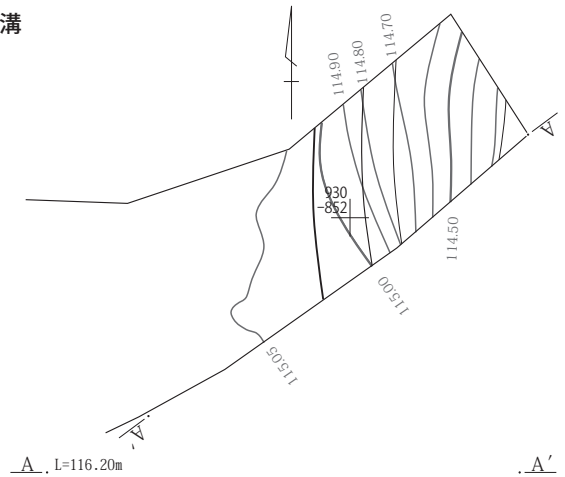


2号溝

I~IX 基本土層

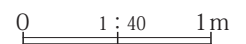
- 1 灰黄褐色As-B混土10YR4/2 白色粒を少量含む。
- 2 黒褐色As-C混土10YR3/1 Hr-FAブロック・焼土粒が混じる。
- 3 黒褐色土10YR3/2 やや明るいHr-FA洪水後の攪拌層。Hr-FAブロック・白色軽石・白色粒を中量含む。

3号溝



遺構確認面

第14図 1~3号溝



形状・走向 断面のみ確認のため、不明。

規模 幅 2.36m以上

検出・埋没状況 上層はにぶい黄橙色土主体で、しまりはあまり良くない。断面形は不整形。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の確認状況および中・近世以降の溝であると推定される。

3号溝(第12図 第3表 PL.8)

位置 X=43929~43931 Y=-70851~-70853

重複 なし。

形状 不明 走向：N-90°

規模 調査長 0.98m 幅 2.36m以上 深さ 確認面から0.75m 底面比高 南端が0.11m高い。

検出・埋没状況 上層は灰黄褐色土主体でAs-Bを含んでいる。下層は軟らかい砂質土である。断面形は不整形。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の確認状況および埋土から、中・近世の溝であると推定される。

(5)遺構外出土遺物

須恵器杯口縁部片(第15図1)、土師器杯口縁~底部片(2)、須恵器椀口縁~体部片(3)、須恵器椀底部片(4・5)、須恵器甕口縁部片(6)、土師器甕口縁部片(7~9)、須恵器甕胴部片(10~16)が出土している。

上記遺物以外に、須恵器小型製品破片38点、須恵器大型製品破片20点、土師器小型製品破片9点、土師器大型製品破片167点が出土しているが、いずれも小片のため掲載には至らなかった。

第2表 ピット計測表

No.	図	PL.	位置	長軸	短軸	深さ	長軸方位
1	11	4	X=43927 Y=-70866	0.29	0.23	0.50	N-87°-W
2	11	4	X=43927 Y=-70865	0.53	0.40	0.17	N-82°-W
3	11	4	X=43927 Y=-70864	0.25	0.22	0.49	N-76°-E
4	11	4・5	X=43929 Y=-70862	0.17	0.14	0.22	N-82°-E
5	11	5	X=43929 Y=-70855	0.24	0.23	0.18	N-87°-W
6	11	5	X=43930 Y=-70863	0.30	0.26	0.58	N-57°-W
7	11	5	X=43929 Y=-70864	0.28	0.19	0.23	N-5°-E
8	11	5	X=43930 Y=-70864	0.24	0.22	0.15	N-20°-E
9	11	6	X=43930 Y=-70860	0.17	0.11	0.23	N-88°-W
10	11	6	X=43928 Y=-70853	0.13	0.12	0.15	N-79°-E

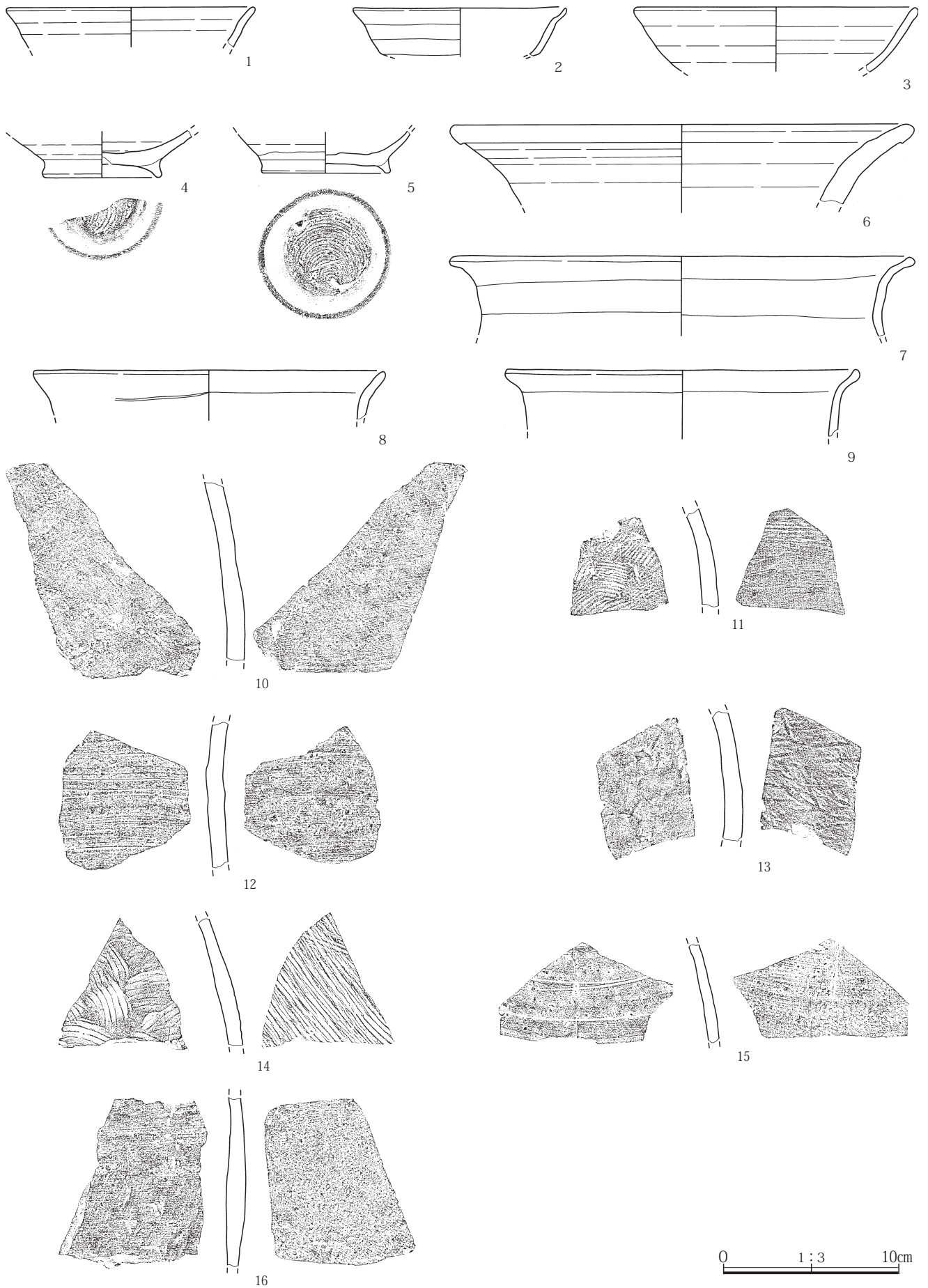
第3節 調査のまとめ

前橋市0149遺跡で確認された遺構は、土坑12基、ピット10基、畠2面、溝3条である。このうち最も古い遺構は、1号溝で古墳時代前~中期に比定される。

畠跡は、調査区の東側と西側の両端で確認された。6世紀初頭のHr-FA降下後に起こった洪水堆積物を耕作している。近隣の大渡道場遺跡(第5図⑨)で6世紀初頭から10世紀の畠跡が確認されているが、本遺跡の畠跡も近い時期である可能性もある。

8号土坑からは、9世紀前葉から中葉にかけての遺物が集中して出土した。また、遺構外からではあるが、同時期の遺物が数多く出土している。奈良・平安時代の遺構は染谷川と牛池川に囲まれた台地上に集中している。また、本遺跡以東では、同時期の遺構の調査例は少なく、集落の東端に位置付けられよう。

今回の調査では調査範囲が限定され、遺構量も少なかったため、本遺跡と周辺遺跡の関係について詳細に述べるに至らなかった。今後の調査・研究によって当該地域の歴史が一層解明されることを期待したい。



第15図 遺構外出土遺物

第3章 調査された遺構と遺物

第3表 出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7図 PL. 9	1	須恵器 皿	2号土坑 底部～体部片	底	7.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀後半代
第7図	2	須恵器 壺	2号土坑 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第8図	1	須恵器 椀	3号土坑 体部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第8図	2	須恵器 甕	5号土坑 頸部下片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第9図 PL. 9	1	土師器 小型甕	7号土坑 底部～胴部下位	底	5.2		細砂粒/良好/にぶ い橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	古墳時代後期
第10図 PL. 9	1	須恵器 杯	8号土坑 完形	口 底	13.7 8.0	高 3.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀前半代
第10図 PL. 9	2	土師器 杯	8号土坑 一部欠損	口 底	11.6 7.6	高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	9世紀中葉
第10図	3	須恵器 椀	8号土坑 口縁部～体部片	口	15.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回りか。体部下端に高台貼付時に粘土をナデ着けた痕跡がみられる。	9世紀前半代
第10図	4	黒色土器 椀	8号土坑 口縁部～体部片	口	11.8		細砂粒/酸化焰/オ リーブ黒	内外面とも黒色処理。内面は横方向のヘラミガキ、ほとんど器面摩滅のため単位不明。	
第15図	1	須恵器 杯	調査区西 口縁部片	口	14.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	9世紀前半代
第15図	2	土師器 杯	調査区西 口縁部～底部小片	口 底	12.0 8.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	9世紀中葉
第15図	3	須恵器 椀	調査区中央 口縁部～体部片	口	15.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	9世紀中葉
第15図	4	須恵器 椀	調査区中央 底部～体部下位片	底 台	6.4 6.6		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第15図 PL. 9	5	須恵器 椀	調査区西 底部	底 台	7 7.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	9世紀後半代
第15図	6	須恵器 甕	調査区中央 口縁部片	口	25.6		細砂粒・粗砂粒(白 色粒)/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部下は下方に引き出されている。	
第15図	7	土師器 甕	調査区中央 口縁部～胴部上位 片	口	25.8		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	9世紀中葉
第15図	8	土師器 甕	調査区西 口縁部片	口	19.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は内外面とも横ナデ。	9世紀前半代
第15図	9	土師器 甕	調査区中央 口縁部片	口	19.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	9世紀中葉
第15図	10	須恵器 甕	調査区西 胴部片				細砂粒・粗砂粒(白 色粒)/還元焰/灰	内面面ともヘラナデが施されているが、外面には平行叩き痕、内面にはアテ具痕が微かに残る。	
第15図	11	須恵器 甕	調査区西 胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	外面はヘラナデ、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第15図	12	須恵器 甕	調査区西 胴部片				細砂粒・粗砂粒(白 色粒)/還元焰/灰	外面にはロクロ痕が残る、内面はヘラナデ。	
第15図	13	須恵器 甕	調査区西 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	外面は格子状叩き痕、内面は無文のアテ具痕が残る。	
第15図	14	須恵器 甕	調査区西 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第15図	15	須恵器 甕	調査区西 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	内外面ともヘラナデ。外面に降灰が付着。	
第15図	16	須恵器 甕	調査区西 胴部片				細砂粒・粗砂粒(白 色粒)/還元焰/灰	内外面ともヘラナデ。	

写真図版

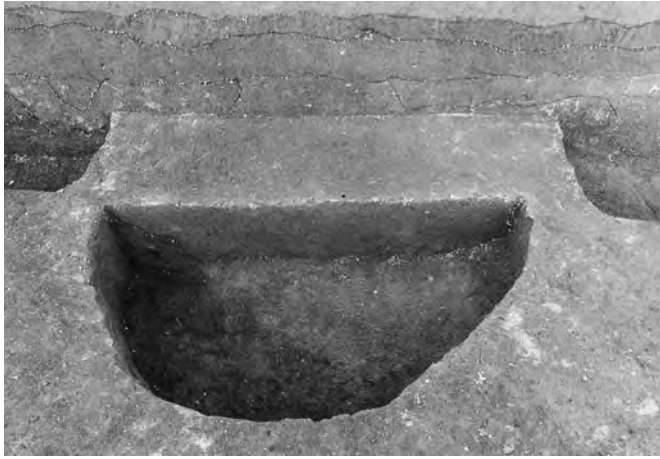


1 前橋市0149遺跡遠景(西から) 【写真のほぼ中央が遺跡地、その奥に群馬県庁が見える】



2 遺跡周辺空中写真(国土地理院の空中写真 1961年撮影 上が北、写真のほぼ中央が前橋市0149遺跡)

PL.2



1 1号土坑セクション(南から)



2 1号土坑全景(南から)



3 2号土坑セクション(南から)



4 2号土坑全景(南から)



5 3号土坑セクション(東から)



6 3号土坑全景(東から)



7 4号土坑セクション(南から)



8 4号土坑全景(南から)



1 5号土坑全景(南西から)



2 6号土坑セクション(北から)



3 7号土坑セクション(南から)



4 7号土坑全景(南から)



5 8号土坑遺物出土状況(北から)



6 8号土坑全景(北から)



7 9・10号土坑全景(南東から)



8 11号土坑全景

PL.4



1 12号土坑セクション(南から)



2 土坑群全景(西から)



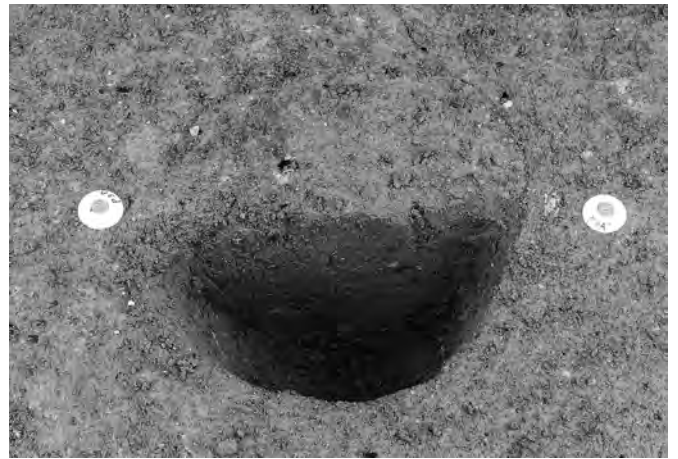
3 1号ピットセクション(北から)



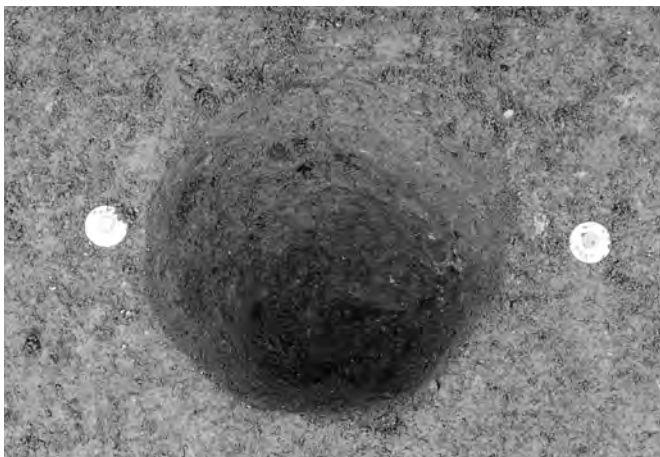
4 1号ピット全景(北から)



5 2号ピット全景(北から)



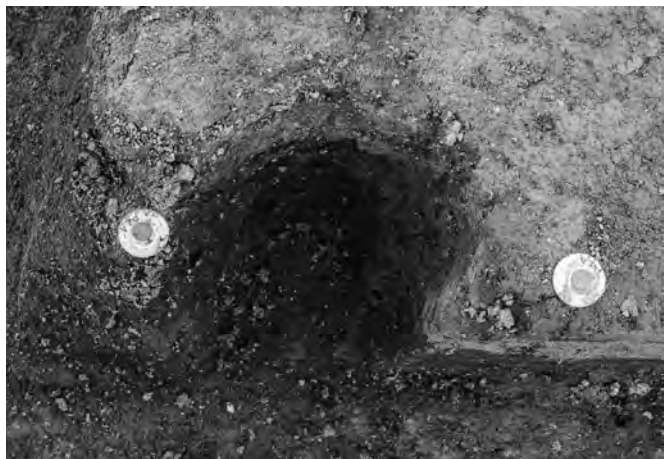
6 3号ピットセクション(北から)



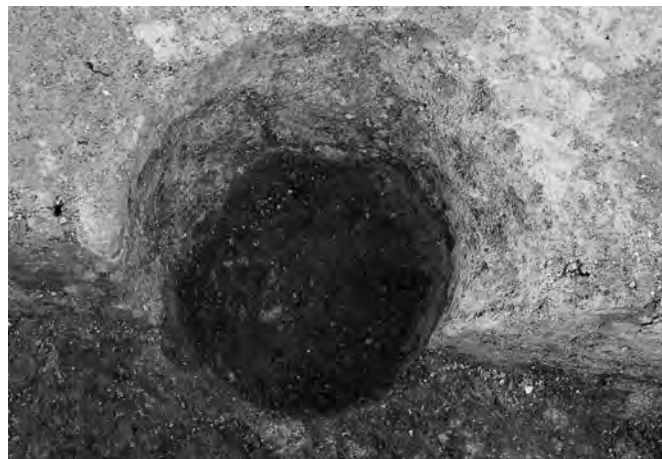
7 3号ピット全景(北から)



8 4号ピットセクション(南から)



1 4号ピット全景(南から)



2 5号ピット全景(南西から)



3 6号ピットセクション(西から)



4 6号ピット全景(西から)



5 7号ピットセクション(西から)



6 7号ピット全景(西から)



8 8号ピットセクション(西から)



8 8号ピット全景(西から)

PL.6



1 9号ピットセクション(南から)



2 10号ピット全景(北から)



3 1号畠全景(南西から)



4 1号畠耕作痕(西から)



5 2号畠全景(東から)



1 2号畠全景(南東から)



2 1号溝全景(南東から)



3 1号溝セクション(南東から)



4 2号溝セクション(北東から)



1 2号溝セクション(南から)



2 3号溝セクション(北から)



3 4号トレンチセクション(南から)



4 5号トレンチセクション(南から)



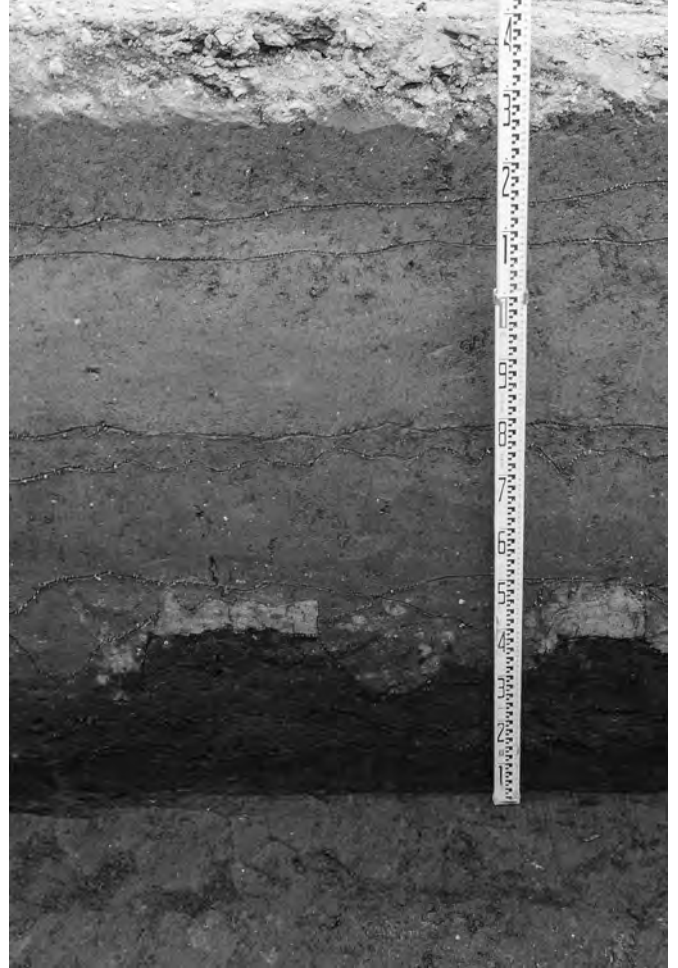
5 1号トレンチセクション(東から)



6 2号トレンチセクション(南から)



1 3号トレンチセクション(南から)



2 6号トレンチセクション(北から)



2±1



7±1



8±1



8±2



遺構外5

前橋市0149遺跡出土遺物

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	まえばししぜろいちよんきゅういせき
書名	前橋市 0149 遺跡
副書名	(都)中央大橋線街路事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	—
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	673
編著者名	齊田智彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20210122
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	まえばししぜろいちよんきゅういせき
遺跡名	前橋市 0149 遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししおおともまち
遺跡所在地	群馬県前橋市大友町
市町村コード	10201
遺跡番号	0149
北緯 (世界測地系)	362335
東経 (世界測地系)	1390235
調査期間	20181201-20181228
調査面積	409.00
調査原因	道路建設
種別	集落/生産
主な時代	古墳/古代/中世/
遺跡概要	古墳-溝1/古代-土坑4-畠2-須恵器-土師器/中世-土坑8-ピット10-溝2
特記事項	なし
要約	本遺跡は、相馬ヶ原扇状地の扇端が前橋台地に移行する付近に位置する。調査区の東端と西端で耕作方向の異なる、Hr-FA 降下後の畠を検出した。また、土坑1基からは9世紀代の須恵器・土師器がまとめて出土した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第673集

前橋市0149遺跡

(都)中央大橋線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和3(2021)年1月8日 印刷

令和3(2021)年1月22日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／ジャーナル印刷株式会社
